



ぶらり相生第3号
平成29年7月

「珍しい古墳発見！」

兵庫県が古墳数、日本一というのをご存知でしょうか。古墳というと大阪府堺市にある百舌古墳群中の大仙陵古墳（伝仁徳陵古墳）を想像する人が多いのでは……。大仙陵古墳は日本最大の規模で総面積約46万m²、主軸の長さ486mで、一人の人間が一日に1m³の土を運んだとして、一日に千人を動員しても完成までに4年間はかかったと推定されています。



こんなに大きなものがどのように、誰が、何の目的で築造したのか、想いをめぐらしてしまいます。古墳時代の説明は古代日本成立の説明につながります。最近陵墓参考地の調査も一部で始められ、謎多き古墳時代の説明にメスが入れることになるでしょう。

さて、相生市内には珍しい古墳が存在しています。それは、若狭野町若狭野にある若狭野古墳です。7世紀後半の方墳といわれています。一辺約15メートル、高さ約3メートルあります。見かけ三段につくられています。これは、西播磨に多い横口式石槨系の古墳で、その代表墳といわれています。各辺には外護列石がめぐらされており、堀の跡も残っています。

玄室は床石、玄門立柱に閉塞扉石など入念な構造を誇ります。7世紀後半ということで、終末期古墳が数多く分布しますが、玄室（遺体を納める部屋）は、奥壁、両側壁、天井、床石ともに一枚岩で、あたかも組合式石棺の長辺に入口をつけたような、珍しい構造をもっています。

この特徴的なところが評価されて、1985（昭和60）年に兵庫県指定史跡となっています。

相生高校の南側にも「大塚ハザ古墳」があります。生徒たちが登下校中に眺める風景となっています。